

沖縄県文化芸術振興計画の進行管理

【成果指標の状況】

沖縄県

【指標の状況(令和6年度実績)】

指 標		基準値 (R3) A	目標値 (R9) B	実績 (R4) C	実績 (R5) C	実績 (R6) C	計画値 (R6) D B－(B－A)× 計画の残年数 ／6年	達成率 (C－A) / (D－A)	要因分析	担当課	
総括指標	「沖縄文化が保全・継承されている」とする県民の充足度	35.8%	42.1%	－	－	39.9%	39.0%	130%	令和6年度の実績値は令和6年度計画値である39%より0.9ポイント上回った。	文化振興課	
	「地域の文化資源を生かしたまちづくりが盛ん」とする県民の充足度	26.6%	33.1%	－	－	27.7%	29.9%	34%	令和6年度の実績値は令和6年度計画値である29.9%より2.2ポイント下回ったが、基準値からは1.1ポイント上昇した。	文化振興課	
	(直近1年間に)文化芸術を直接鑑賞したことがある人の割合	69.0%	80.0%	－	－	－	74.5%	－	－	文化振興課	
	「子どもが文化に親しむ機会の提供」に対する満足度	16.8%	24.4%	－	－	－	20.6%	－	－	文化振興課	
	「独特の文化がある」ことを本県(県民)の長所と捉えている割合	12.6%	14.1%	－	－	13.6%	13.4%	133%	令和6年度の実績値は令和6年度計画値である13.4%より0.2ポイント上回った。	文化振興課	
成果指標	(1) 文化芸術の振興										
	1	しまくとぅばを挨拶程度以上使う人の割合	28.6%	44.0%	39.0%	36.8%	42.5%	36.3%	181%	【達成状況の説明】 令和6年度のしまくとぅば県民意識調査では、「しまくとぅば」の使用頻度について、挨拶程度以上使うとした人の割合は42.5%であり、令和5年度の36.8%から増加しており、目標値の36.3%を上回った。 【要因分析】 「各地域におけるしまくとぅばの保存・普及・継承の促進」の施策に係る「主な取組」において、計画で掲げた目標値をほぼ達成していることから、各種取組を多角的に推進した結果、「しまくとぅばを挨拶程度以上使う人の割合」の計画値達成に繋がっている。	文化振興課
	2	県の支援した伝統芸能関係団体が実施したイベント(公演等)の参加者数	4,750人	16,000人	35,783人	386,318人	308,940人	10,375人	5408%	【達成状況の説明】 伝統芸能関係団体が実施する公演に対し県が支援を行うことで、魅力ある伝統芸能公演の開催につながり、令和6年度は目標を大幅に超える約30万人の参加者数となった。 【要因分析】 各種公演が開催されることにより、伝統芸能の魅力発信、鑑賞機会の提供、若手実演家の育成等を通じた、伝統芸能の継承と発展に寄与することができた。	文化振興課
	3	県内空手道場における門下生数(1道場あたりの平均)	23人	39人	23.1人	21.3人	23.3人	31人	4%	【達成状況の説明】 令和5年度の21.3人とと比較し門下生数は回復しているが、目標値を下回っている。 【要因分析】 門下生数の減少は新型コロナウイルス感染症の拡大により空手道場の活動が制限された影響が考えられる。	空手振興課
	4	従事者一人あたりの工芸品生産額	1,599千円 (R2年度)	2,079千円	1,624千円 (R3年度)	1,996千円 (R4年度)	2,366千円 (R5年度)	1,839人	320%	【達成状況の説明】 工芸生産額は、1年後に実績値が確定する。直近の令和5年度の従事者一人あたりの工芸品生産額は2,366千円に増加し、目標値を達成した。 【要因分析】 品質および商品価値の向上や、製造工程の見直しおよび経営改善、販路開拓の取り組みに加え、県内観光客数の増加等で観光消費が促進されたこと等により工芸品の生産額が増加し、目標値を達成した。	ものづくり振興課

【指標の状況(令和6年度実績)】

指 標			基準値 (R3) A	目標値 (R9) B	実績 (R4) C	実績 (R5) C	実績 (R6) C	計画値 (R6) D $B - (B - A) \times$ 計画の残年数 ／6年	達成率 (C-A) / (D-A)	要因分析	担当課
5	市町村文化協会会員数		11,844人	14,000人	10,737人	11,224人	11,271人	12,922人	-53%	【達成状況の説明】 目標値に対する達成率は-53.2%となったが、昨年度の達成率-86.3%と比較すると33.1ポイントの上昇となった。 【要因分析】 市町村文化協会会員数は、会員の高齢化により年々減少傾向にあることに加え、近年では新型コロナウイルス感染症の影響により、会員数が大幅に減少し、その後会員数の戻りが鈍化している状況がある。今後は、コロナ禍前(令和元年度)の水準に戻し、活動水準を維持することを最優先に取り組む。	文化振興課
6	国立劇場おきなわの入場者数		16,156人	59,000人	35,608人	35,080人	34,216人	37,578人	84%	【達成状況の説明】 令和6年度の入場者数は34,216人であり、計画値に達してはいない。 【要因分析】 令和5年度と比較して、公演数が減少しているため入場者数も減少したと思われる。鑑賞者の層が高齢者に偏っており、若い世代への周知・啓発が必要である。	文化振興課
7	文化財の指定件数(累計)		1,434件	1,476件	1,440件	1,447件	1,451件	1,455件	81%	【達成状況の説明】 市町村等の関係機関と連携しながら、文化財指定に向けた取組を推進した成果により、目標値である国・県・市町村指定の文化財件数も増加傾向にあり、令和6年度の実績値も目標値に近接し概ね達成と評価できることから、「目標達成の見込み」があると判断した。 【要因分析】 目標達成に向けては、市町村等の関係機関との連携が不可欠であることから、文化財指定に向けた取組への指導・助言に引き続き取り組んでいく必要がある。	文化財課
8	景観アセスメント数(累計)		68件	128件	76件	81件	87件	98件	63%	【達成状況の説明】 令和6年度の実績は、対象事業の一部に進捗遅れがあり、目標値98件に対して87件となった。一方、達成率は、令和2年度からの累計目標値と実績値を踏まえると、目標達成の見込みである。また、沖縄らしい風景づくり支援事業(景観行政の推進や景観形成に係る人材の育成)などを実施したことで、景観評価システムの周知や人材育成等が図られた。 【要因分析】 対象事業の進捗を適時把握しながら事業課と連携していくことや、対象事業を多く選定していくことが必要である。このことから、関係者と連携しながら普及啓発や人材育成を図ることで、関係者間で共通認識をもつことが課題である。	都市計画・ モノレール課
(2) 人材の養成等											
9	沖縄県立芸術大学の卒業生数(累計)		4,011人	4,935人	4,303人	4,452人	4,585人	4,473人	124%	【達成状況の説明】 計画値を上回る卒業生数となった。引き続き、大学運営の改善を行うほか施設整備を計画的に実施するなど、良好な職場環境の確保に努める。 【要因分析】 合同企業説明会の開催や運営費交付金の交付を通じて良好な職場環境の確保に努めた結果、一定程度、卒業生数の増に繋がったものと考えられる。	文化振興課
10	学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合		84%	86%	86%	90%	87.6%	85.0%	360%	【達成状況の説明】 小中学校、演目それぞれに対応した効果的なワークショップ実施によって、児童生徒の理解度が高まり、目標達成することができた。 【要因分析】 今後も理解度を高めるために、委託業者や実施校と協議を重ね、小学生、中学生の特性に対応した事業内容の工夫改善を行う。	文化財課

【指標の状況(令和6年度実績)】

指 標			基準値 (R3) A	目標値 (R9) B	実績 (R4) C	実績 (R5) C	実績 (R6) C	計画値 (R6) D $B - (B - A) \times$ 計画の残年数 ／6年	達成率 (C-A) / (D-A)	要因分析	担当課
11	県内の文化芸術に関する取組を行う団体等への支援件数		115件	142件	127件	73件	90件	129件	-185%	【達成状況の説明】 市町村や関連団体の歴史文化関連事業の調査及び琉球歴史文化の日事業としての連携の可否の調査をする時点では未定、無回答の団体があり、目標件数に達しなかったが、市町村や関連団体とともに関連事業を実施することにより、県民の沖縄の歴史と文化への理解を深められた。 【要因分析】 市町村や関連団体の歴史文化関連事業の調査及び琉球歴史文化の日事業としての連携の可否の調査をする時点では未定、無回答の団体があったため、目標達成につなげることができなかった。	文化振興課
12	文化功労者表彰の受賞者数		15件	15件	15件	15件	15件	15件	100%	※目標値が基準値と同じ値になっているため、計画値は15件に設定し、達成率は増加率ではなく、目標達成率とする(C/D) 【達成状況の説明】 令和6年度は39名(団体1、個人38)から推薦があり、審査の結果合計15名(団体1、個人14)を表彰した。計画値と同数の表彰を行っており、目標を達成した。 【要因分析】 本表彰の継続的な実施により、関係団体への周知を図ることができたため。	文化振興課
(3) 文化芸術活動の充実											
13	身体障害者福祉展における障害者制作作品の展示		240件	240件	241件	253件	288件	240件	120%	【達成状況の説明】 令和6年度は、目標値を上回る288点の出席数となり、目標を達成した。 【要因分析】 会場の様子をオンラインで配信するバーチャル展も併せて実施したことによって、多くの県民の関心を集めることにつながったことによる増と考えられる。	障害福祉課
14	県が支援した文化交流イベントの参加者数		5,878人	99,000人	26,005人	10,356人	9,571人	52,439人	8%	【達成状況の説明】 コロナ禍により見送られていた行事の件数が復調傾向にあり、演者等の海外渡航も可能な社会情勢となり、基準値からは増加したものの、計画値には満たない状況である。 【要因分析】 行事の件数は復調傾向にあり、演者等の海外渡航も可能な社会情勢となったが、災害や円安による海外公演経費の高騰等で十分な行事ができていない可能性がある。また、国内も物価高騰や人材不足等により十分な行事が実施できていない可能性がある。	文化振興課
(4) 文化芸術の活用											
15	文化資源を活用した体験プログラムの構築・実施(累計)		—	50回 (R8)	6回	10回	21回	25回	84%	※R4開始事業のため、達成率は増加率ではなく、目標達成率とする(C/D) 【達成状況の説明】 R6年度は文化体験プログラムの実施回数10回を目標値としていたが、11回実施し、目標値を超えている。 【要因分析】 派遣報酬の見直しや、事業周知の強化を行い派遣回数が前年と比べ増加した。	文化振興課
16	文化資源を活用したビジネスの自走化件数(累計)		—	22件	6件	10件	8件	11回	73%	※R4開始事業のため、達成率は増加率ではなく、目標達成率とする(C/D) 【達成状況の説明】 令和5年度は比較的規模の小さい事業もあり、より多い事業を採択することができたが、令和6年度は予算の都合上8件となった。しかし、補助事業は内容を吟味して選定しており、より多くの事業者を補助することも大切だが、それ以上に自走化の可能性やコンテンツの影響力、効果も見据えて決定している。 【要因分析】 予算には限りがあるため、本事業の趣旨(コンテンツの創出)を鑑み、補助額の多い新規の事業を継続事業よりも多く採用した結果、件数が減少した。	文化振興課

【指標の状況(令和6年度実績)】

指 標			基準値 (R3) A	目標値 (R9) B	実績 (R4) C	実績 (R5) C	実績 (R6) C	計画値 (R6) D $B - (B - A) \times$ 計画の残年数 ／6年	達成率 (C-A) / (D-A)	要因分析	担当課
	17	平均滞在日数	4.42日	4.71日	4.25日	4.04日 (速報値)	4.05 (速報値)	4.57日	-255%	【達成状況の説明】 令和6年度の入境観光客数はこれまで最多を記録した平成30年度に対し99.5%となりコロナ禍前と同水準となったが、令和6年度の平均滞在日数については基準年としている令和3年度と比較しても低い数値となっている。 【要因分析】 その理由として、基準値とした令和3年度の値が新型コロナ禍での実績値であり、観光客数や客層が通常と異なり、高く集計されてしまったためとなっている。	観光政策課(出典元)
	(5) 文化芸術を支える基盤の強化										
	18	沖縄県立芸術大学における学部志願倍率	2.4倍	2.3倍 (R8)	1.9倍	1.9倍	2.30倍	2.30倍	100%	※目標値が基準値を下回る計画となっているため、計画値は2.3倍に設定し、達成率は増加率ではなく、目標達成率とする(C/D) 【達成状況の説明】 ・R6実績値は前年度比では0.4ポイント増加し目標値と同率となった。増加要因は音楽学部は美術工芸学部が前年度比3.0ポイント増で学部全体の増加を押し上げた。 【要因分析】 ・少子化の進行に伴い近年は入学志願者倍率も低減傾向にある中で、各学部ごとの入試委員会。大学の入試管理委員会を設置し各種入試対策等を図っている。	文化振興課
	19	県内文化施設の稼働状況	31.6% (R2)	60%	54.9%	60.1%	57.2%	45.8%	180%	【達成状況の説明】 県内文化施設の令和6年度の稼働率は約57%で、前年度と比較してやや低下した。 【要因分析】 一部施設における稼働率の集計方法の変更及び令和5年度には休館のため調査から除いていた比較的稼働率の低い施設の稼働開始が稼働率の低下に影響した。その他の施設では平均して横這いとなっている。	文化振興課
	20	著作権に関する相談件数	2件	10件	3件	1件	3件	6件	25%	【達成状況の説明】 令和6年度の相談件数は3件となっており、目標値を下回っている。 【要因分析】 著作権に関する相談窓口は、文化庁をはじめ専門機関が複数あることから、それらの団体へ直接相談しているものと推測される。	文化振興課
	21	企業の文化芸術に対する支援の促進	6件	6件	10件	10件	10件	6件	167%	※目標値が基準値と同じ値になっているため、計画値は6件に設定し、達成率は増加率ではなく、目標達成率とする(C/D) 【達成状況の説明】 民間財団等による文化活動への支援について、市町村及び関係団体への周知と応募の取りまとめを行った。計画値を上回る10件の取り組みについて支援が行われ、目標を達成した。 【要因分析】 民間財団等による文化活動への支援について、市町村及び関係団体への周知が図れたため。	文化振興課
参 考 指 標	1	本県の芸術家人口の数(人口10万人あたり)	313人 (H27)		—	813人 (R2)	—				文化振興課
	2	博物館・美術館来館者数	13.9万人		32.7万人	48.8万人	52.1万人				博物館・美術館
	3	工芸の杜施設の総利用者数	36,000人		33,296人	65,671人	97,419人				ものづくり振興課
	4	空手会館来館者数	74,535人		68,630人	104,203人	83,301人				空手振興課